

大野 岳

教育目標「ふるさとを愛し 夢・志をもつ児童生徒の育成」

～ふるさとに学ぶ ふるさとを学ぶ ふるさとの人と共に歩む～

令和6年11月6日発行 文責 校長 中尾 聡彦

佐賀県文学賞（川柳の部）の審査結果

文化芸術の秋と言いますが、昨年に続き、非常にうれしい便りが届きました。

本校では「川柳教室」に取り組んでいます。驚くことに15年もの長きにわたり、岩永孝雄様（原屋敷）を中心に、岩永憲一良様（南波多町出身）、故松本昌倫様（井手野）のお力添えを得て取り組んできている魅力ある教育活動です。

今年も、佐賀県文学賞に出品したところ、驚くほどたくさんの児童生徒が入賞を果たしました。

児童生徒の作品にふれると、その感性に驚かされます。また、授業を行っていただく講師の岩永孝雄様のあたたかい言葉かけと優しいまなざしに児童生徒も笑顔で応えています。

今後も、南波多郷学館の伝統的な教育活動として大事にしていきたいと思っています。

作品については、コミュニティ・スクールだよりでご紹介します。

<審査結果>

【小学生の部】3席(1名)、秀作(2名)、佳作(6名)

【中学生の部】1席(1名)、秀作(2名)、佳作(5名)

地域の伝統芸能「府招浮立」

秋は、様々な行事が計画され、本校の児童生徒もいろいろな出番をいただいています。

南波多町では、県指定重要無形民俗文化財であり、国選択無形民俗文化財でもある「府招浮立」が10月13日(日)に、氏神の愛宕権現社の秋祭りに奉納されました。

以前は、町内の様々な地区で行われていたそうですが、時の流れと共になくなっていき、今では、府招地区にだけ残っているそうです。この「府招浮立」は約400年以上も前から伝わっている貴重な伝統芸能だということでした。

しかしながら、「府招浮立」を実際に見たことがあるという児童生徒は少なかったため、10月1日(火)の全校朝会で、府招浮立保存会会長の前田昭男様に来校いただき講話をいただきました。児童生徒は、前田様の話を熱心に聞いていました。

「府招浮立」が約400年以上も前から伝わっているということは、その間、受け継いできた先人がいたということだと思います。

今年、参加した児童生徒もその歴史を受け継いだ一人だということだと思います。



文化発表会 The sky is the limit ～創り出そう新たな愛郷伝説～

文化発表会が、10月26日(土)に行われました。

今年のテーマは、「The sky is the limit ～創り出そう新たな愛郷伝説～」です。このテーマには、失敗を恐れずに可能性を信じて挑戦し、最後にやり切ったと思える文化発表会にしたいということと、今までの文化発表会を超えるものにして、南波多郷学館の伝説にしたいからという思いが込められていました。

開会セレモニーの後に、さっそくステージⅠ(1～4年生)の発表がありました。幼さの残る1年生から、ずいぶん成長した4年生までの精いっぱいの踊りや歌声に会場は笑顔と感動に包まれました。

ステージⅡ(5～7年生)は、ふるさと南波多町を題材にした学習の成果をプレゼンテーションや劇にして披露してくれました。地域を学び、その地域のよさを発信することができた素晴らしい発表だったと思います。

そして、いよいよステージⅢ(8～9年生)の出番です。8年生は南波多町の特産物であるシャインマスカットを題材に、ユーモアを交えながら劇を演じてくれました。また、その後の合唱も観客の心に響きました。

9年生は、修学旅行で学んだ平和の尊さを、「手紙～最後の願い～」と題した劇の中で特攻隊の姿を通して演じてくれました。脚本のすばらしさ、そして演技力等々、9年生の平和への願いは見る者の心を揺さぶり、会場は感動の涙に包まれました。

そして、昼休みに入り、みんなが楽しみにしているパフォーマンス発表の時間になりました。

毎年恒例の「未成年の主張」、「ダンス」の発表、そして、職員の演奏とパフォーマンスが行われました。大いに盛り上がった後に、いよいよこの4月に発足した「南波多軽音楽サークル」の発表です。CATVでも紹介されていますが、メンバーはこの文化発表会に向けて練習をしてきました。途中いろいろなトラブルもありましたが、自分たちの力で乗り越えてきました。また、メンバーの思いに心を打たれ、エレキギターやベース、ドラムを寄贈してくださる方がいらっしやったり、地元のバンドメンバーの方が練習に協力してくださったりと、本当に多くの方々の思いを受けての演奏になりました。これまでで一番の演奏になり、演奏後は拍手喝采でした。

土曜日ということもあり、多くの方々に参観していただきました。ありがとうございました。

本校の児童生徒のよさや可能性を再発見できた一日になりました。

